

臨海部

色彩ガイドライン



川崎市





はじめに

川崎市臨海部は、戦災や環境問題を克服しながら、常に京浜工業地帯の中核としてわが国の産業・経済を支えてきました。

しかし、首都圏全体の中で臨海部の機能が論じられるとき、都市の中での工業地帯のあり方が、以前にも増して問われるようになりました。高速湾岸線や東京湾横断道路など広域交通網の整備と川崎マリエンをはじめとする市民利用施設の整備などにより、臨海部は市民に遠い存在から身近な存在へと変化してきました。

これにともない臨海部は、企業の研究開発・生産・物流拠点としてだけでなく、海と運河の景観を生かしたアメニティ空間としての位置づけなども求められてきています。

そこで、川崎市では、都市景観条例を制定し、それぞれの地域で魅力ある都市景観の形成に努めていますが、市民の目に触れることが多くなった工場など事業所の景観づくりについても、新たな取り組みが期待されるようになりました。また、そこで働く人々の、より快適な就業環境づくりのうえからも周辺環境や外観に配慮した魅力ある事業所づくりが望まれています。

そのために、川崎市では、快適で活気のある臨海部の景観形成をめざして、このたび、臨海部色彩ガイドラインを策定しました。このガイドラインは、工場建屋、倉庫、タンク、プラントなどの新築や塗り替えの際に、色彩計画に基づいた塗装をすることによって、臨海部全体の景観をより魅力のあるものにしようとするものです。

色彩計画を独自に実施している事業所やコーポレートカラーの指定がある場合を考慮して、臨海部全体の調整を図りながらも、自由度の高いシステムの策定に心がけてきました。全体として、地域的なまとまりのある景観をつくるための色彩計画を提案していますが、使用する色の種類を特定せず、企業の皆さまが基本となる色を選択するものとし、魅力的な色の組み合わせができるようなシステムとしています。

この色彩ガイドラインに基づいて塗り替え等が進みますと、従来にない魅力的な新しい臨海部の景観が創り出されるものと考えています。

川崎新時代の創造に向け、また臨海部の一層のイメージアップのため、皆さまの御理解と御協力をお願いいたします。

目次

- 1 色彩ガイドラインの考え方—— 4
- 2 色彩デザインの流れ—— 5
- 3 このガイドラインにおける色の表示方法について—— 7
- 4 一般カラーデザイン地区—— 9
- 5 重点カラーデザイン地区—— 11
- 6 グラフィックデザイン拠点—— 15
- 7 地区の区画についての考え方—— 17
- 8 色彩計画の実施例—— 19
- 9 さまざまな色彩デザインの事例—— 21



(写真は川崎市臨海部)



[1] 色彩ガイドラインの考え方

工場施設や港湾施設などにおけるダイナミックな構造物の色彩は、臨海部の景観をかたちづくる重要な要素になっています。

このガイドラインは、これらの構造物の色彩デザインについての考え方をまとめ、調和のとれた活力ある臨海部の景観づくりを行うことを目的としています。

[臨海部の色彩景観づくりの目標]

- ダイナミックで明快な色彩景観の創造
- 楽しく活気のある色彩景観の創造
- 変化と個性をもつ色彩景観の創造

[色彩ガイドラインの適用範囲]

下図の範囲内における建築物や工作物などの色彩を対象としています。これらの施設の新築や塗り替えなどを行う場合は、市と相談して色彩デザインの調整を行ってください。



[色彩ガイドラインの特徴]

この色彩ガイドラインは、以下のような特徴をもっています。

1 — 自主性の尊重

個々の企業の自主性を尊重し、自律的な色彩デザインを助けるよう、基調色相の選択や重点度に応じた地区分けなど、事業者が自主的に判断・決定することを原則としています。

2 — 自由度の高い色彩選択

使用できる色の範囲を幅広く決めているため、自由度の高い色彩デザインが行えます。

3 — 快適な色彩環境の創造

類似した色による調和を中心としているため、見た目に快適な色彩環境が、徐々に形成されていきます。

[2] 色彩デザインの流れ

まず、事業所全体の色彩計画をつくり、これに基づいて個別施設の色彩デザインを進めるものとします。計画の策定や施設の建設・塗装にあたっては、このガイドラインに沿った色彩デザインを行うために、あらかじめ市と相談してください。

[色彩デザインの流れ]

●事業所全体の色彩計画

1 ステップ—色彩表現のレベルによって地区を選択する

色彩計画を行うにあたって、次の3つの地区の中から事業所に適用する地区を選択します。どの程度の色彩表現を行うのかに応じて選択する地区が決まります。

A 一般カラーデザイン地区

B 重点カラーデザイン地区

C グラフィックデザイン拠点

2 ステップ—基調色相を選択する

色彩計画のベースとなる基調色相を選択します。基調色相は次の5つの中から選択するものとします。

赤系色相

黄系色相

緑系色相

青系色相

紫系色相

3 ステップ—事業所全体の色の使い方のルールをつくる

個々の施設の色彩デザインにとりかかる前に、このガイドラインに基づいて事業所全体の色の使い方のルールを決めてください。このルールは事業所ごとに統一感のとれた色彩景観をつくりだすための手がかりとなるものです。

●個別施設への展開

4 ステップ—個別施設の色彩デザイン

事業所全体の色彩計画に基づいて、個別施設の色彩デザインを行います。

5 ステップ—建築・塗装の実施

市との調整が済みしだい、建築・塗装に着手してください。

市と相談

事業所全体の色彩計画の策定にあたっては、市と相談し、調整を行ってください。

市と相談

個別施設の色彩デザインにあたっては、市と相談し、調整を行ってください。

報告

完成したら完成写真等を市に提出してください。いろいろな機会に広く紹介していきたいと考えています。

[色彩表現に応じた3つの地区]

A 一般カラーデザイン地区

●色彩デザインの目標

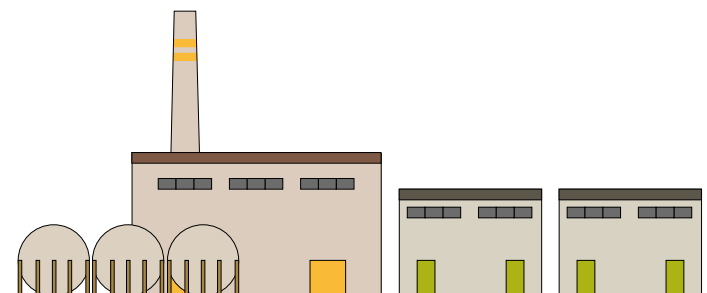
落ちつきのある調和のとれた色彩景観づくりをめざします。

●使用できる色彩の範囲

落ちついた景観となるように色相調和型の色彩範囲とし、周辺の環境になじみやすい建築の一般的な色彩である低彩度色を使用します。

●色彩デザインの留意事項

使用する色彩の範囲がせまく、個別施設どうしの色をあわせやすいので、比較的スムーズに個別施設のデザインを進められます。



B 重点カラーデザイン地区

●色彩デザインの目標

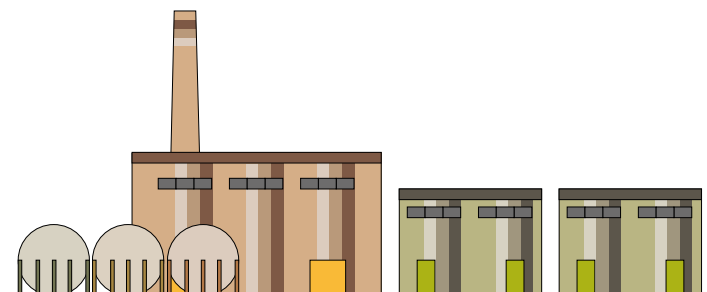
積極的な色彩デザインにより、調和のとれた中にも活力のある色彩景観づくりをめざします。

●使用できる色彩の範囲

ダイナミックで明快な色彩環境とするため、多彩な色彩表現ができるように色彩の幅を広くとります。

●色彩デザインの留意事項

使用できる色彩の範囲が広く、高い彩度の色彩も使えるようになっているため、自由度の高い計画が行えます。ただし、個々の施設どうしの色合いがバラバラにならないようにするために、あらかじめ個々の施設の色彩デザインの考え方を細かく決めておく必要があります。



C グラフィックデザイン拠点

●色彩デザインの目標

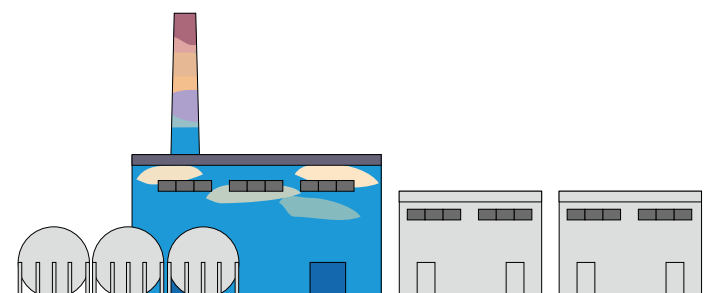
地域のランドマークとしてメッセージ性が強く個性のある色彩景観づくりをめざします。

●使用できる色彩の範囲

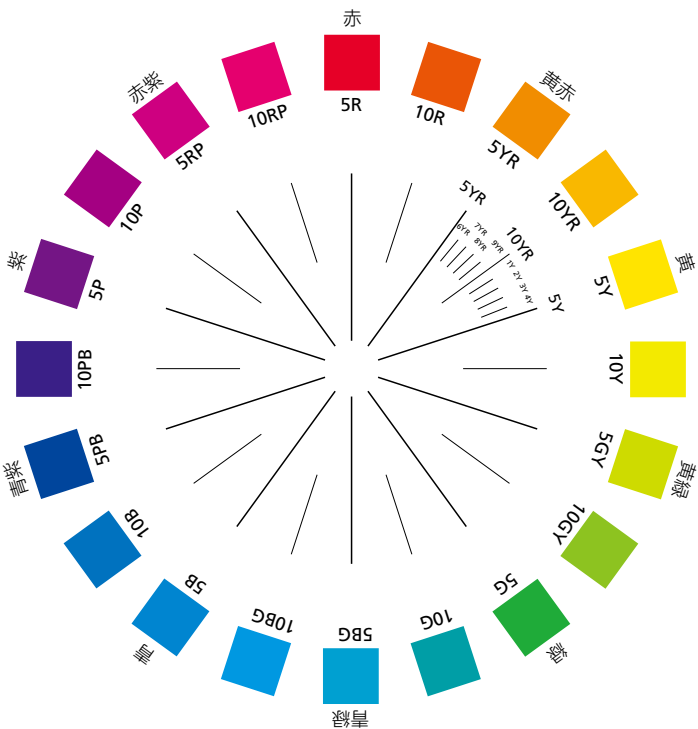
メッセージ性や楽しさの表現ができるように色彩範囲を自由にします。

●色彩デザインの留意事項

地区のランドマークとして市民に親しまれるとともに、芸術性が感じられるような優れたデザインを行うことが必要です。



[3] このガイドラインにおける色の表示方法について



[色の表示について]

このガイドラインでは、マンセル表色系の考え方に基づいて、色彩の範囲を次のような指標で表しています。（このパンフレットは印刷のため、正確な色の再現はできません。あらかじめ御了承ください。）

●色相・明度・彩度について

色彩は、色相、明度、彩度の3つの指標で表すことができます。

(例)  この色は色相5R、明度6、彩度1なので **5R 6／1**（ごアール、ろくのいち）と表示します。

●色相

色の種類に応じた色味の度合いを色相として表します。色相は、右図のようにR、YR、Y、GY、G、BG、B、PB、P、RPなどの色を表す記号と、その度合いを表す0から10までの数字を組み合わせで表します。

●明度

色の明るさの度合いを明度として表します。明度は色相に応じ0から10までの数字で表します。

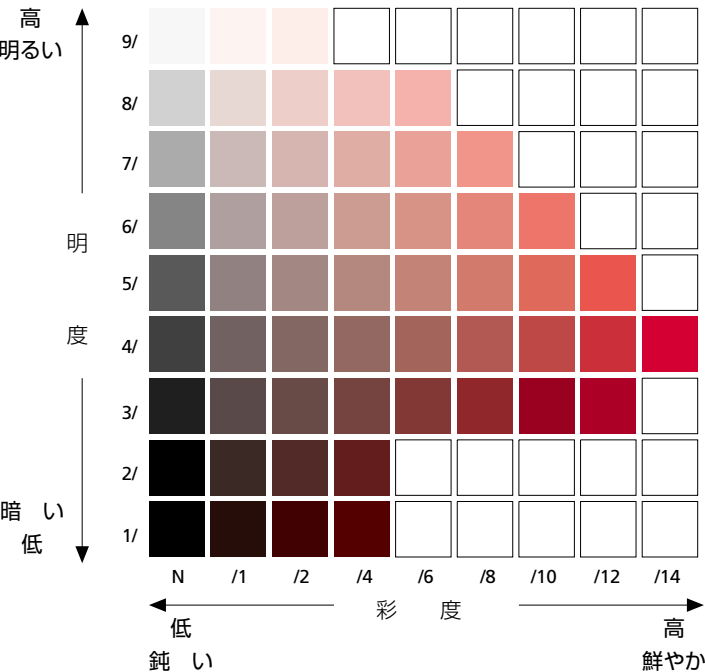
●彩度

色のあざやかさの度合いを彩度として表します。彩度は色相に応じて0から15程度までの数字で表します。

●トーンごとのマンセル値による範囲

●色相	●トーン		
	L1	L2	L3
R 赤系	9.5～8.0／0.6～1.5	7.9～5.0／0.6～1.5	4.9～1.0／0.6～1.5
YR 黄赤系	9.5～8.0／0.6～2.5	7.9～5.0／0.6～2.5	4.9～1.0／0.6～2.5
Y 黄系			
GY 黄緑系	9.5～8.0／0.6～2.0	7.9～5.0／0.6～2.0	4.9～1.0／0.6～2.0
G 緑系			
BG 青緑系			
B 青系			
PB 青紫系			
P 紫系	9.5～8.0／0.6～1.5	7.9～5.0／0.6～1.5	4.9～1.0／0.6～1.5
RP 赤紫系			

●色相	●トーン		
	N1	N2	N3
共通	9.8～8.0／0～0.5	7.9～6.0／0～0.5	5.9～4.0／0～0.5
N1～N4: Neutral 1～4	L1～L3: Low Chroma 1～3	M1～M2: Medium Chroma 1～2	



[日本塗料工業会標準色の活用]

施設の塗装や新築に際して、日常的に使われている日本塗料工業会標準色見本帳を、色彩デザインの道具として使用すると便利です。

日本塗料工業会標準色は、2年に1回発行され、1995年版以降は色番号が色相・明度・彩度の組み合わせで表現されてマンセル値も併記されているため、「トーンごとのマンセル値による範囲」と照合するかたちで利用すると、塗装色のコミュニケーションを円滑に行うことができます。

●色相のグループ分けについて

このガイドラインでは色相を次の5つのグループに分け、基調色相としています。

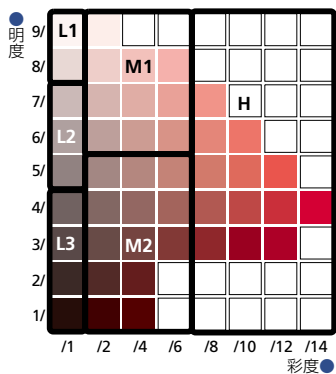
赤系の基調色相——RP、R、YRの色相 黄系の基調色相——YR、Y、GYの色相

緑系の基調色相——GY、G、BGの色相 青系の基調色相——BG、B、PBの色相

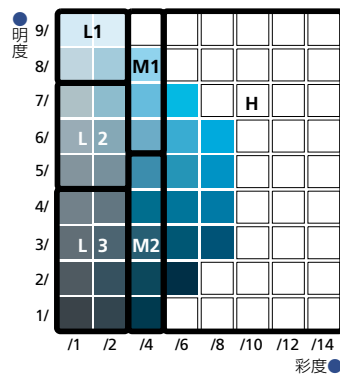
紫系の基調色相——PB、P、RPの色相

●トーンについて

このガイドラインでは色彩の明度と彩度の組み合わせをトーンとして表し、これに基づいて色彩を下図のようなグループに分類します。色の彩度のランクを表すN（無彩）、L（低彩度）、M（中彩度）、H（高彩度）の4つの記号と明度のランクを表す1～4までの数字を組み合わせることで表します。



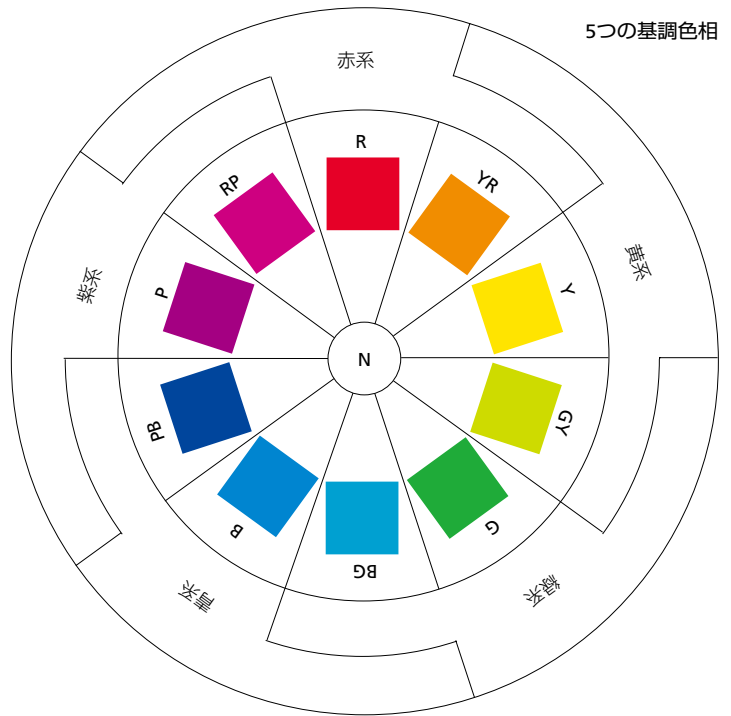
色相が5Rの場合のトーン分類



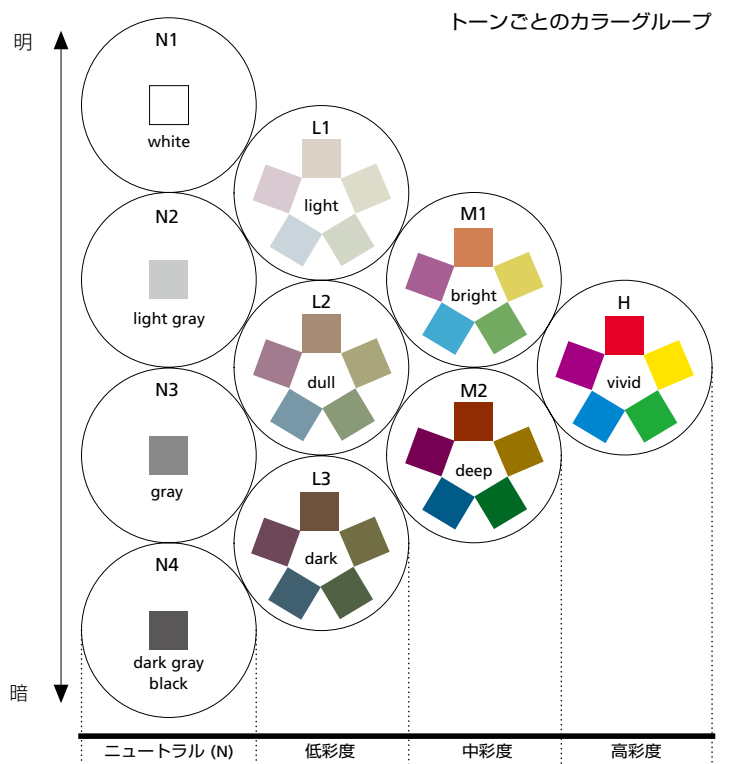
色相が7.5Bの場合のトーン分類

M1	M2	H
9.5～6.0／1.6～7.0	5.9～1.0／1.6～7.0	9.5～1.0／7.1以上
9.5～6.0／2.6～7.0	5.9～1.0／2.6～7.0	
9.5～7.0／2.6～7.0	6.9～1.0／2.6～7.0	
9.5～7.0／2.1～7.0	6.9～1.0／2.1～7.0	
9.5～6.0／2.1～5.0	5.9～1.0／2.1～5.0	9.5～1.0／5.1以上

N1
3.9～1.0／0～0.5
H: High Chroma



5つの基調色相



[4] 一般カラーデザイン地区

一般カラーデザイン地区では、色相調和型の色彩デザインを基本とします。

色相調和型の色彩デザインは、同系統の色相グループの色を使用するデザイン方法です。

赤系、黄系、緑系、青系、紫系の5つの色相グループの中からひとつを選択し、

これを基調色相とした色相調和型の色彩デザインを行うものとします。

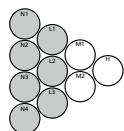
選択した基調色相ごとに、次のような色彩の範囲を設定します。

●使用できる色彩の範囲

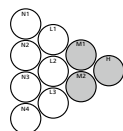
●選択した色相

●ベースカラー

●アクセントカラー

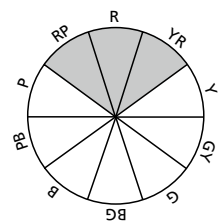


無彩及び低彩度のトーンとして
N1、N2、N3、N4、L1、L2、L3の
範囲の色を使うものとします。



中彩度及び高彩度のM1、
M2、Hトーンの範囲の色
を使うことができます。

赤系の基調色相グループ



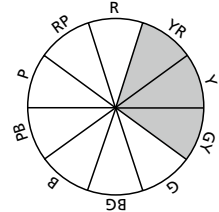
●ベースカラーの例

	RP	R	YR	N
L1				N1
L2				N2
L3				N3

●アクセントカラーの例

	RP	R	YR
M1			
M2			
H			

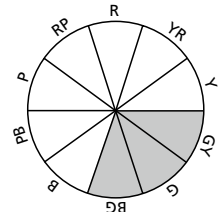
黄系の基調色相グループ



	YR	Y	GY	N
L1				N1
L2				N2
L3				N3

	YR	Y	GY
M1			
M2			
H			

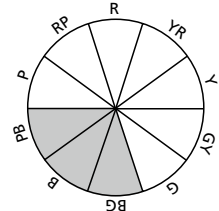
緑系の基調色相グループ



	GY	G	BG	N
L1				N1
L2				N2
L3				N3

	GY	G	BG
M1			
M2			
H			

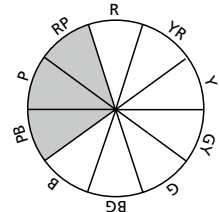
青系の基調色相グループ



	BG	B	PB	N
L1				N1
L2				N2
L3				N3

	BG	B	PB
M1			
M2			
H			

紫系の基調色相グループ



	PB	P	RP	N
L1				N1
L2				N2
L3				N3

	PB	P	RP
M1			
M2			
H			

●ベースカラーとアクセントカラーについて

ベースカラーは、建屋の外壁・タンク・サイロ・煙突などの広い面積に使用する色のことをさし、アクセントカラーは、ベースカラーに対して対比の強い色で、小さい面積（全体の10%程度以下）に使用する色のことをさします。

●特例事項

[アクセントカラーの拡張]

より高いデザイン効果が期待できる場合に限り、アクセントカラーとして基調色相以外の色相のH・M1・M2トーンを使用することができます。

●その他

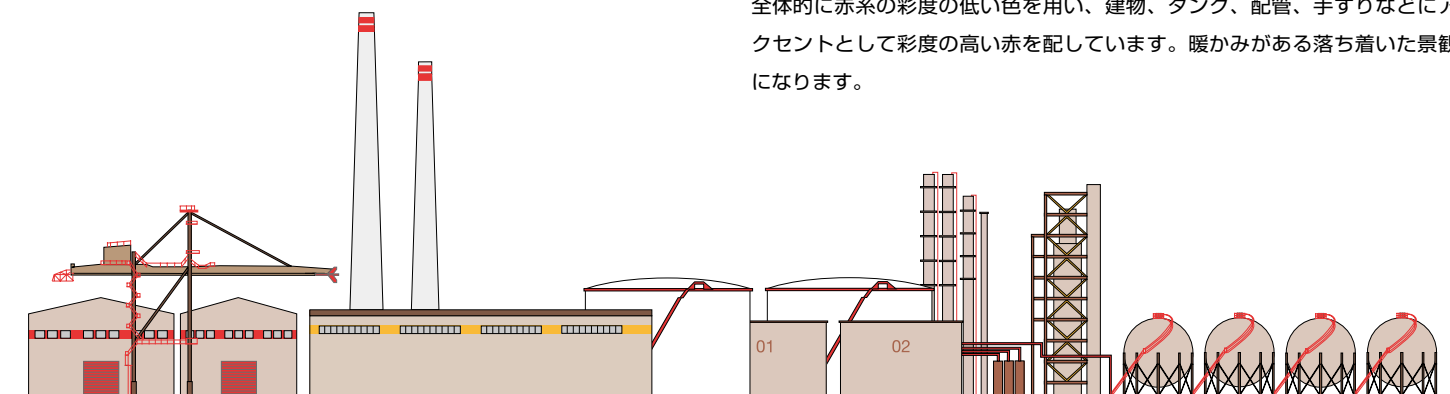
全体の調和に配慮しながらも、適度に色数を使い、変化を付けるように心がけてください。

広告物及びこれを掲出する工作物については建物本体と調和した色彩及びデザインとするよう努めてください。

[一般カラーデザイン地区の色彩デザイン参考例]

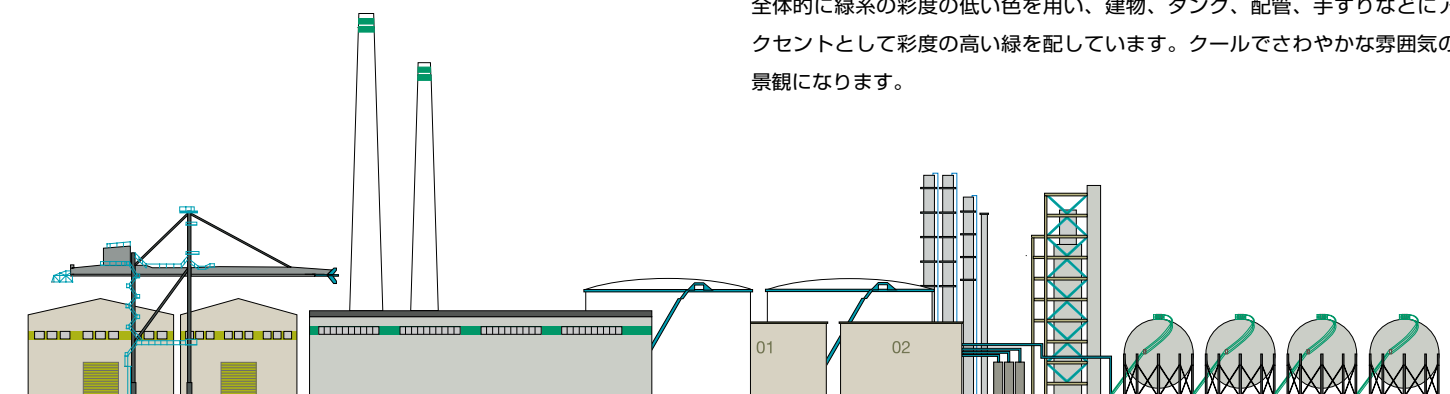
●赤系の基調色相を選択した例

全体的に赤系の彩度の低い色を用い、建物、タンク、配管、手すりなどにアクセントとして彩度の高い赤を配しています。暖かみがある落ち着いた景観になります。



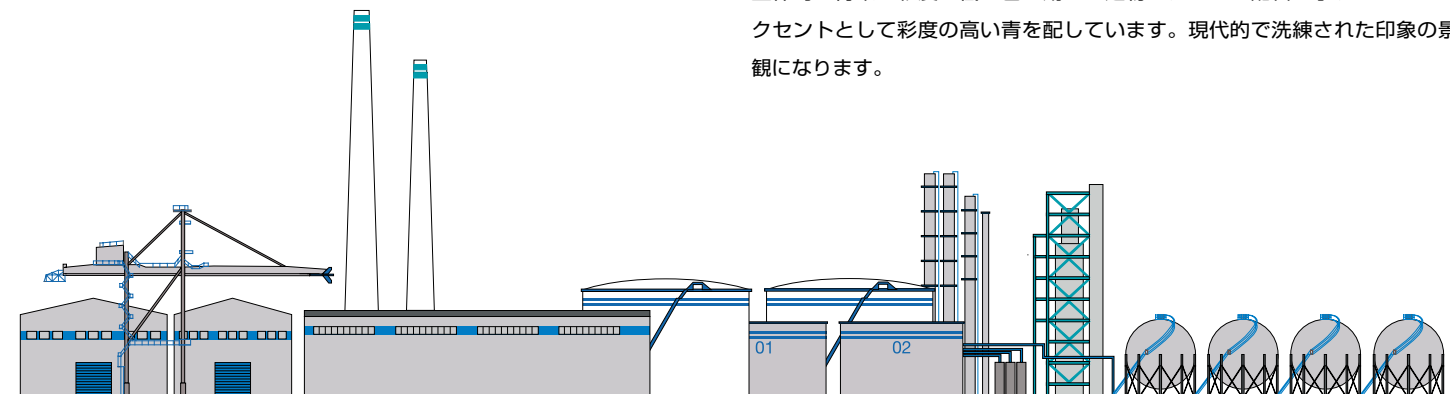
●緑系の基調色相を選択した例

全体的に緑系の彩度の低い色を用い、建物、タンク、配管、手すりなどにアクセントとして彩度の高い緑を配しています。クールでさわやかな雰囲気景観になります。



●青系の基調色相を選択した例

全体的に青系の彩度の低い色を用い、建物、タンク、配管、手すりなどにアクセントとして彩度の高い青を配しています。現代的で洗練された印象の景観になります。



[5] 重点カラーデザイン地区

重点カラーデザイン地区では色相調和型の色彩デザインを基本としますが、
トーン調和型の色彩デザインを用いることもできます。

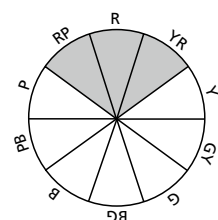
[色相調和型の色彩デザインを行う場合]

色相調和型の色彩デザインは、同系統の色相グループの色を使用するデザイン方法です。赤系、黄系、緑系、青系、紫系の5つの色相グループの中からひとつを選択し、これを基調色相とした色相調和型の色彩デザインを行うものとします。選択した基調色相ごとに、次のような色彩の範囲を設定します。

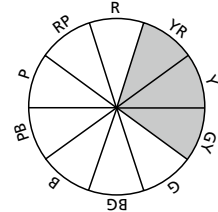
●使用できる色彩の範囲

●選択した色相

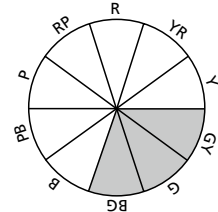
赤系の基調色相グループ



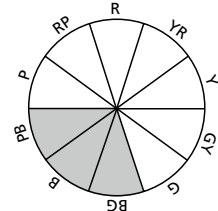
黄系の基調色相グループ



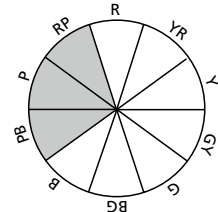
緑系の基調色相グループ



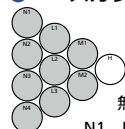
青系の基調色相グループ



紫系の基調色相グループ



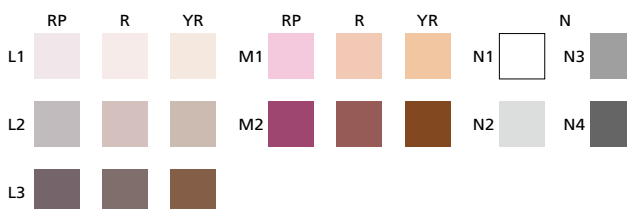
●ベースカラー



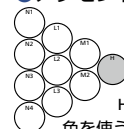
無彩、低彩度、中彩度のトーンとして

N1、N2、N3、N4、L1、L2、L3、M1、M2の範囲の色を使うものとします。

●ベースカラーの例



●アクセントカラー



高彩度の

Hトーンの範囲の

色を使うことができます。

●アクセントカラーの例



[トーン調和型の色彩デザインを行う場合]

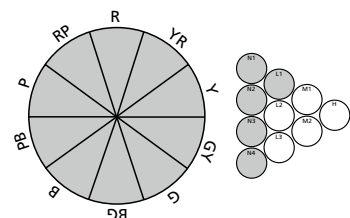
トーン調和型の色彩デザインは、色相は異なっても明度や彩度が良く似た色のグループを組み合わせるデザイン方法です。工場全体としては、色相調和型のデザインを行うことを基本としますが、同じような型のタンクが連続するような場合など、カラフルな色彩デザインを行っても景観の秩序が保たれると考えられる場合はトーン調和型の色彩デザインを行うことができます。

●使用できる色彩の範囲

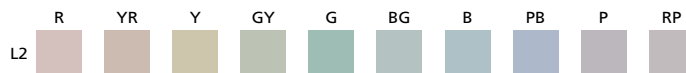
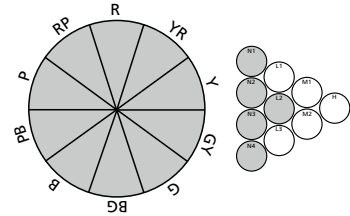
●選択したトーン

●代表的な色彩の例

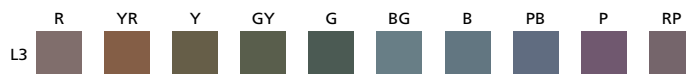
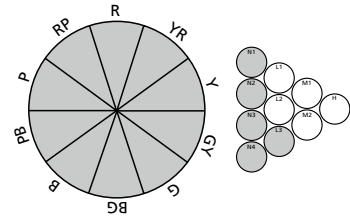
L1 のトーングループを選択した場合



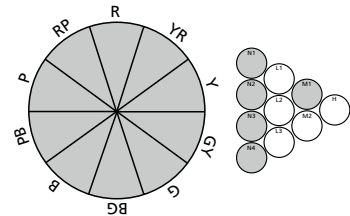
L2 のトーングループを選択した場合



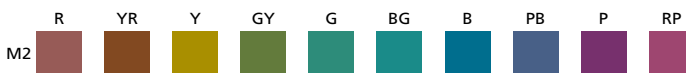
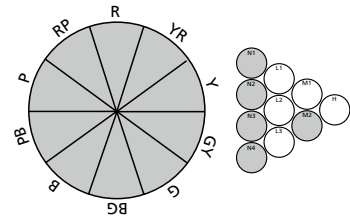
L3 のトーングループを選択した場合



M1 のトーングループを選択した場合



M2 のトーングループを選択した場合



●ベースカラーとアクセントカラーについて

ベースカラーは、建屋の外壁・タンク・サイロ・煙突などの広い面積に使用する色のことをさし、アクセントカラーは、ベースカラーに対して対比の強い色で、小さい面積（全体の10%程度以下）に使用する色のことをさします。

●特例事項

[使用できる色の範囲の拡張]

より高いデザイン効果が期待できる場合に限り、使用できる色彩の範囲が拡張されます。

色相調和型の色彩デザインを行う場合、ベースカラーとして基調色相のHトーン、アクセントカラーとして基調色相以外の色相のH・M1・M2トーンを使用することができます。トーン調和型の色彩デザインを行う場合、アクセントカラーは自由とします。

●その他

全体の調和に配慮しながらも、適度に色数を使い、変化を付けるように心がけてください。

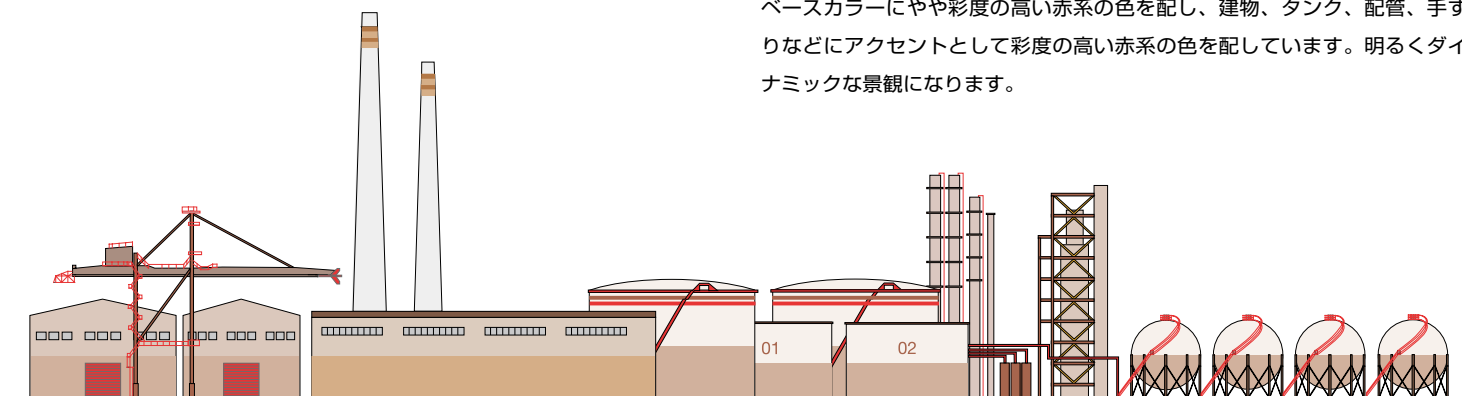
トーン調和を用いる場合、隣り合う構造物との色相の差が離れすぎないように心がけてください。

広告物及びこれを掲出する工作物については建物本体と調和した色彩及びデザインとするよう努めてください。

[重点カラーデザイン地区の色彩デザイン参考例]

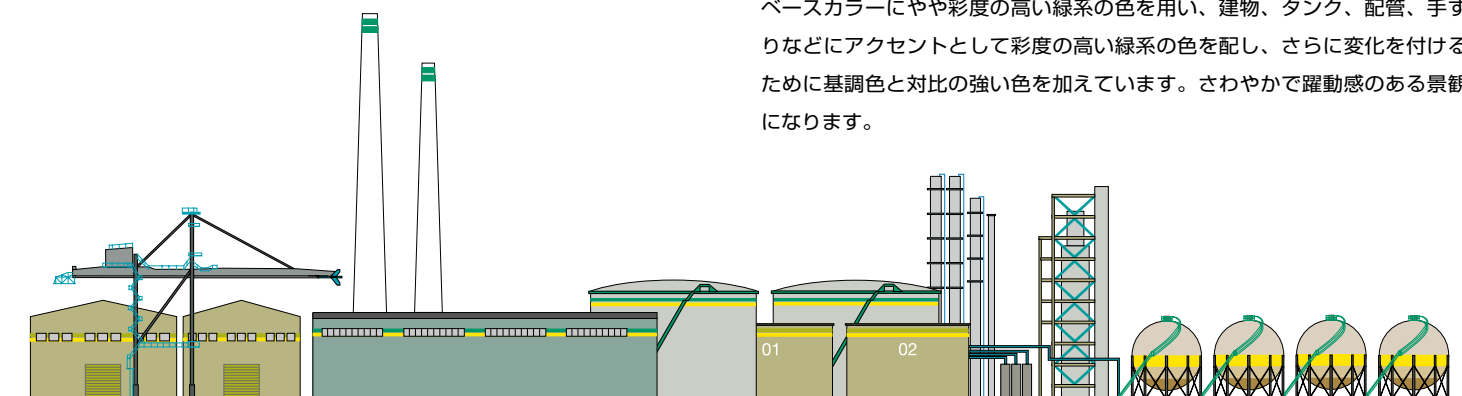
●赤系を選択した色相調和型の例

ベースカラーにやや彩度の高い赤系の色を配し、建物、タンク、配管、手すりなどにアクセントとして彩度の高い赤系の色を配しています。明るくダイナミックな景観になります。



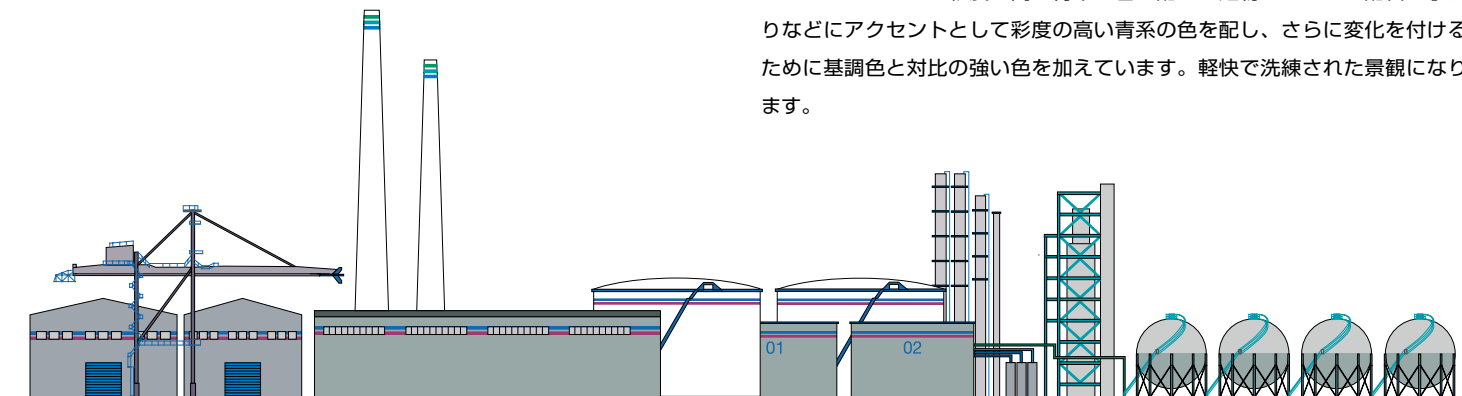
●緑系を選択した色相調和型の例

ベースカラーにやや彩度の高い緑系の色を用い、建物、タンク、配管、手すりなどにアクセントとして彩度の高い緑系の色を配し、さらに変化をつけるために基調色と対比の強い色を加えています。さわやかで躍動感のある景観になります。



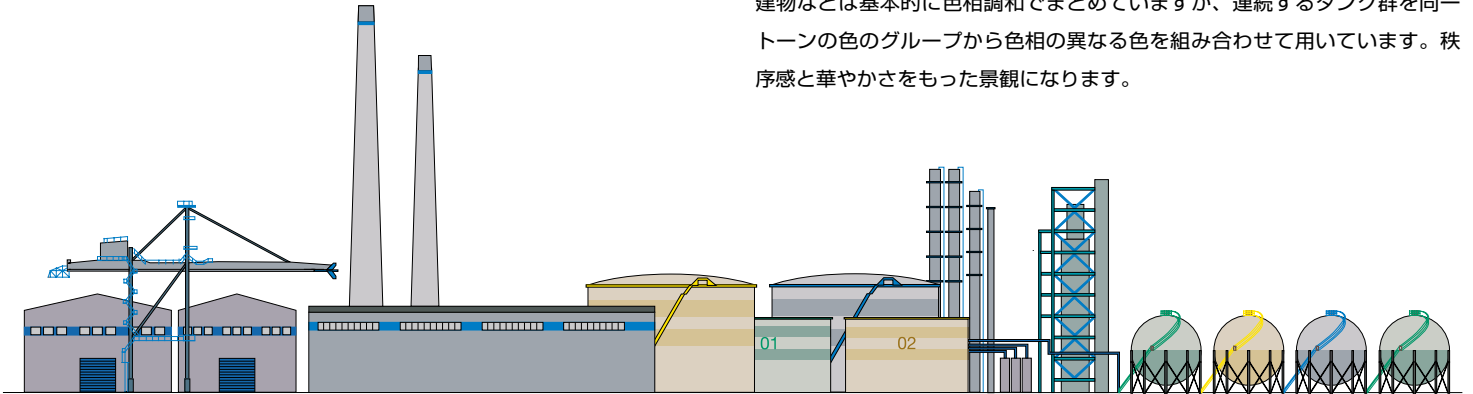
●青系を選択した色相調和型の例

ベースカラーにやや彩度の高い青系の色を配し、建物、タンク、配管、手すりなどにアクセントとして彩度の高い青系の色を配し、さらに変化をつけるために基調色と対比の強い色を加えています。軽快で洗練された景観になります。



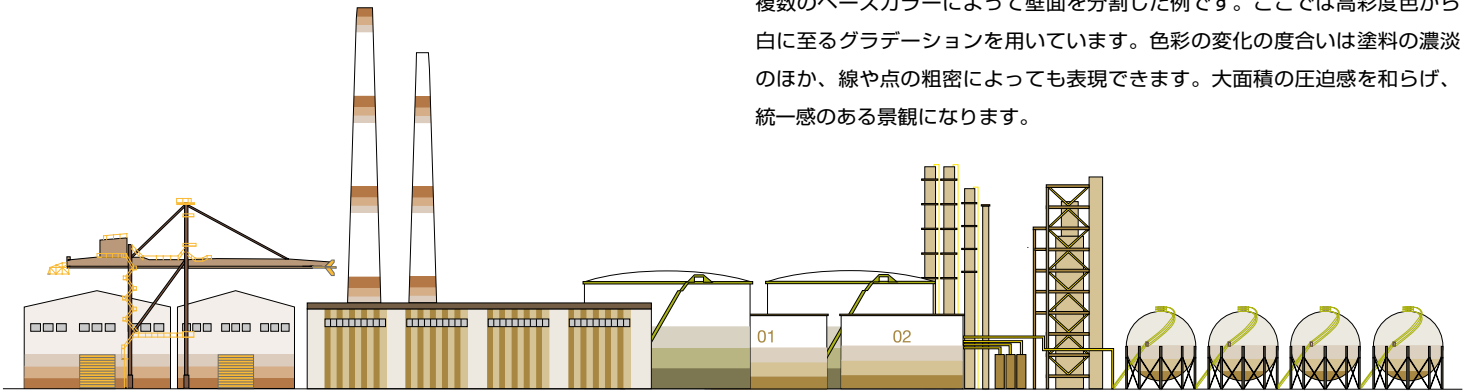
●トーン調和型を一部に用いた例

建物などは基本的に色相調和でまとめていますが、連続するタンク群を同一トーンの色グループから色相の異なる色を組み合わせさせて用いています。秩序感と華やかさをもった景観になります。



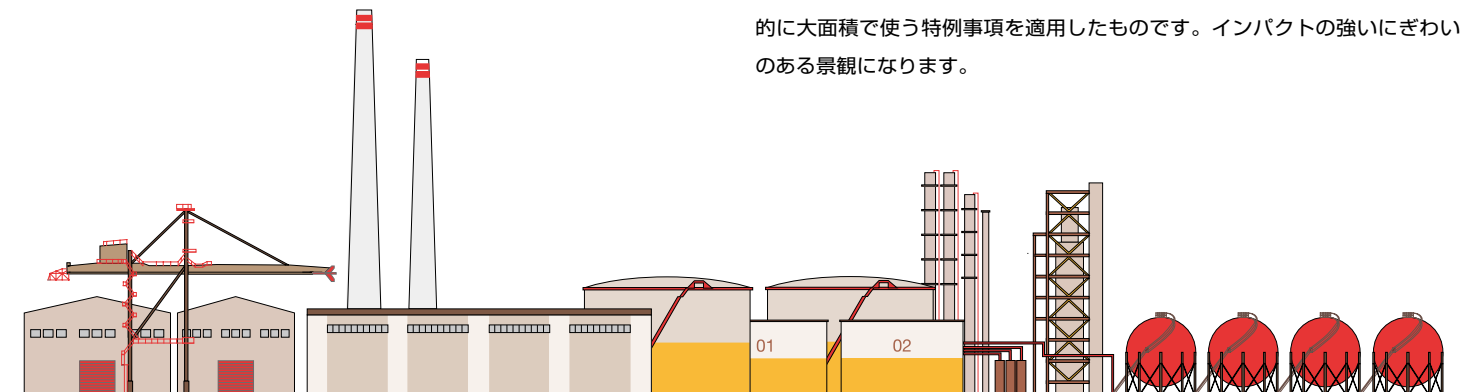
●壁面分割を用い、色相調和型とトーン調和型を組み合わせせた例

複数のベースカラーによって壁面を分割した例です。ここでは高彩度色から白に至るグラデーションを用いています。色彩の変化の度合いは塗料の濃淡のほか、線や点の粗密によっても表現できます。大面積の圧迫感を和らげ、統一感のある景観になります。



●特例事項（ベースカラーの拡張）を取り入れた色相調和型の例

赤系の色相調和型の例ですが、Hトーンのアクセントカラーをベースカラー的に大面積で使う特例事項を適用したものです。インパクトの強いにぎわいのある景観になります。



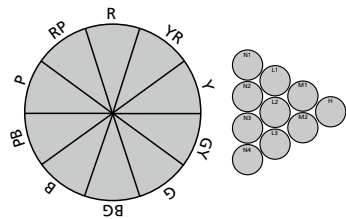
[6] グラフィックデザイン拠点

各事業所の中で重要な建物や外から見えやすい位置にある建物など、地区のランドマークとしての役割を果たすことができる建物は、グラフィックデザイン拠点を選択することができます。

こうした拠点を選択することによって、全色相、全トーンの中から自由に色を選ぶことが可能になりますが、地区のランドマークとして機能することになりますので、市民に親しまれ、芸術性が感じとれるような優れたデザインを行う必要があります。

●使用できる色彩の範囲

●使用できる色相とトーン



全色相、全トーンの中から自由を選択することができます。

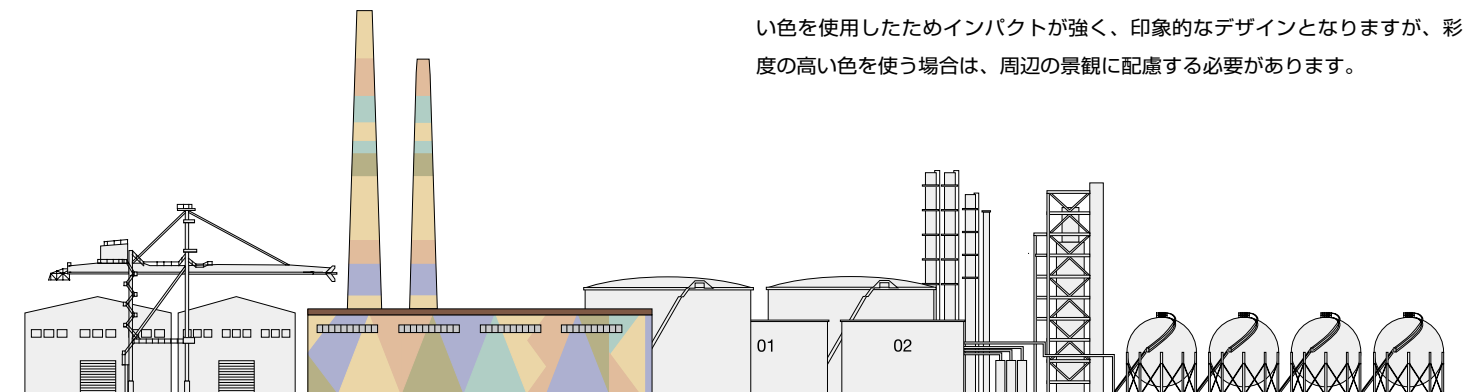
●代表的な色彩の例

	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	N
L1											N1
L2											N2
L3											N3
M1											N4
M2											
H											

[グラフィックデザイン拠点の色彩デザイン参考例]

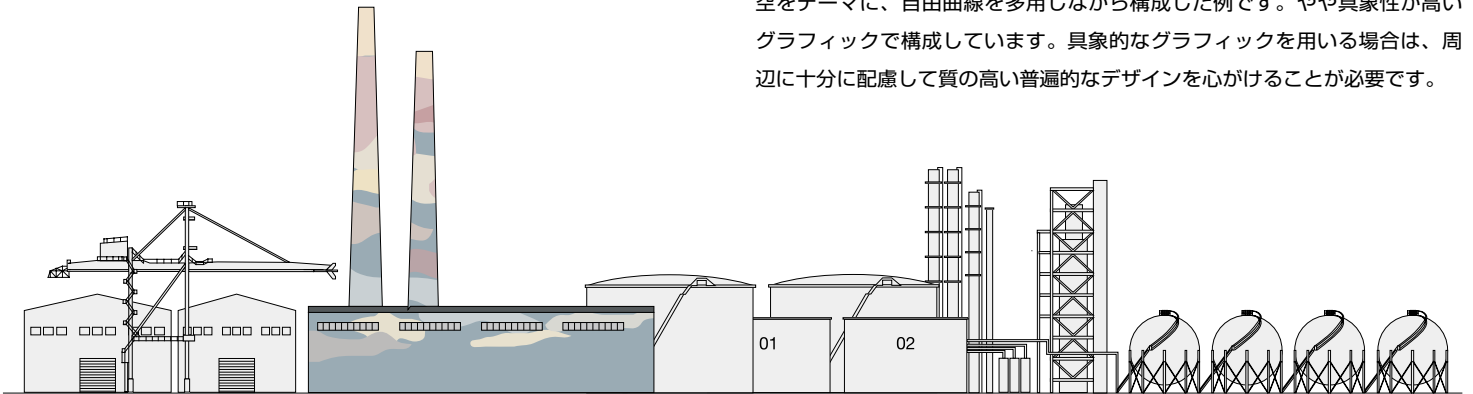
●KAWASAKIの文字をモチーフにした例

KAWASAKIという文字を使って壁面分割した例です。全体的にやや彩度の高い色を使用したためインパクトが強く、印象的なデザインとなりますが、彩度の高い色を使う場合は、周辺の景観に配慮する必要があります。



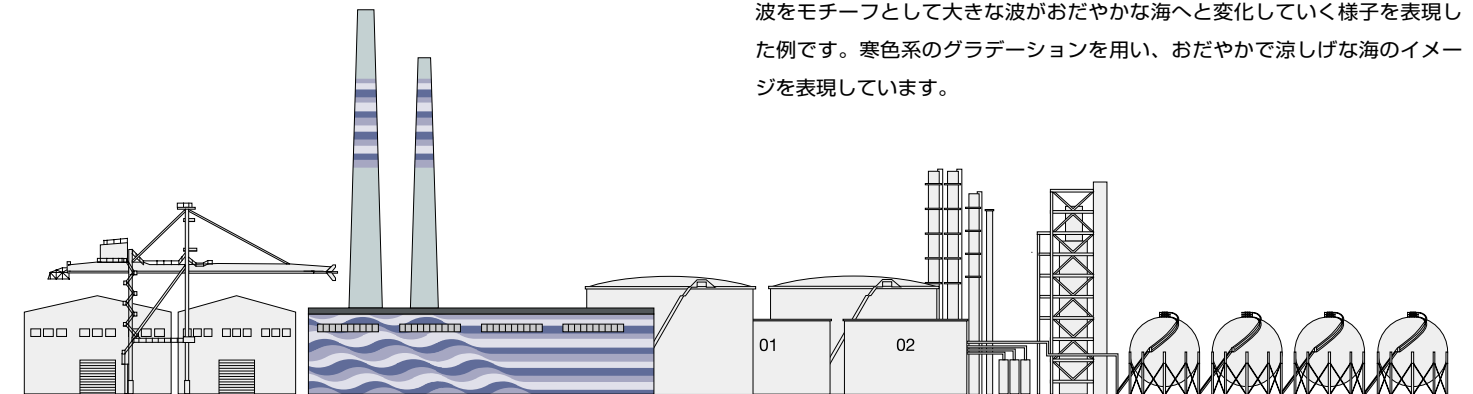
●空をテーマにした例

空をテーマに、自由曲線を多用しながら構成した例です。やや具象性が高いグラフィックで構成しています。具象的なグラフィックを用いる場合は、周辺に十分に配慮して質の高い普遍的なデザインを心がける必要があります。



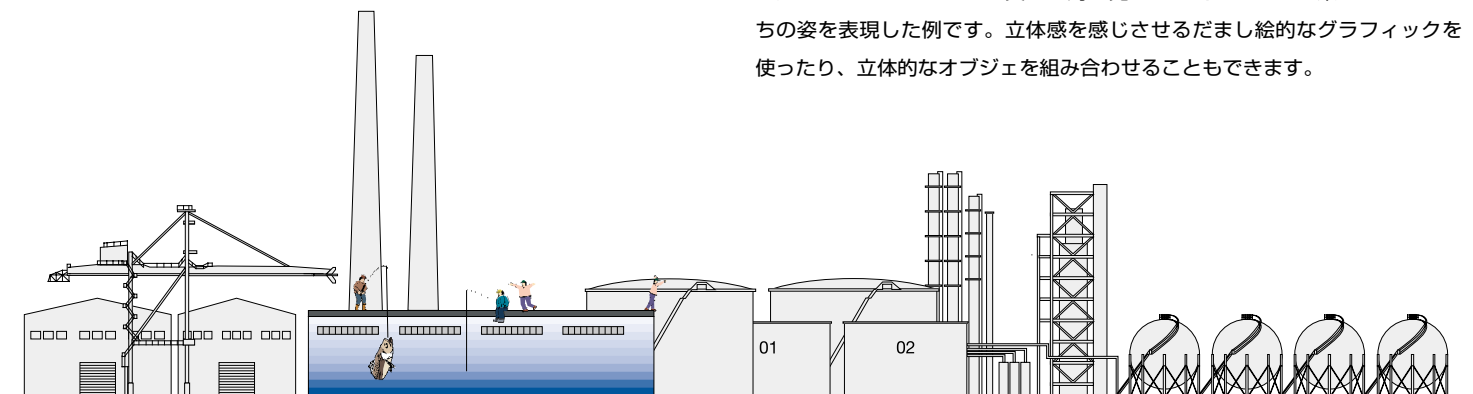
●波をモチーフにした例

波をモチーフとして大きな波がおだやかな海へと変化していく様子を表現した例です。寒色系のグラデーションを用い、おだやかで涼しげな海のイメージを表現しています。



●だまし絵的要素を使った例

ブルーのグラデーションを美しい海に見立て、そこでつりを楽しむ子どもたちの姿を表現した例です。立体感を感じさせるだまし絵的なグラフィックを使ったり、立体的なオブジェを組み合わせることもできます。



[7] 地区の区画についての考え方

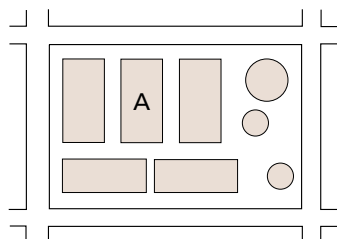
一般カラーデザイン地区と重点カラーデザイン地区

及びグラフィックデザイン拠点の区分は次のようなケースが考えられます。

●一般的な敷地規模の場合

A

一般カラーデザイン地区
を選択した場合の区画のしかた

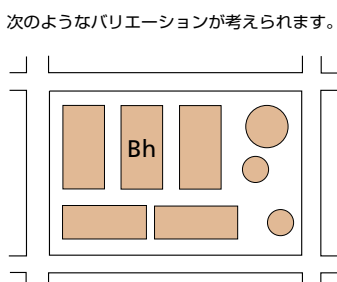


A：一般カラーデザイン地区

1事業所全体を一般カラーデザイン地区とし、色相調和型配色を採用します。

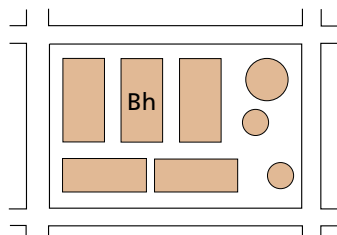
B-1

重点カラーデザイン地区
を選択して色相調和型を使う
場合の区画のしかた

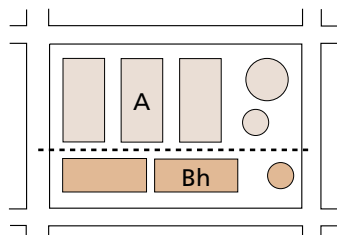


Bh：色相調和型配色

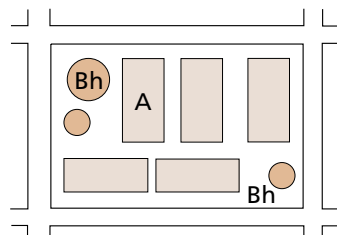
次のようなバリエーションが考えられます。



1事業所全体を重点カラーデザイン地区とし、色相調和型配色を採用した場合。



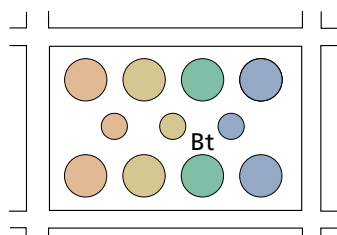
メインとなる道路側・運河側などの特定の区域を重点カラーデザイン地区とし、色相調和型配色を採用した場合。



特定のアイテムや施設を重点カラーデザインの対象とし、色相調和型配色を採用した場合。

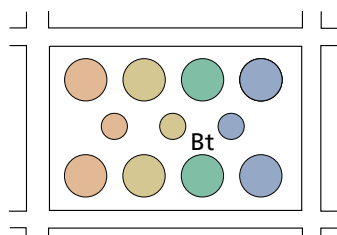
B-2

重点カラーデザイン地区
を選択してトーン調和型を使う
場合の区画のしかた

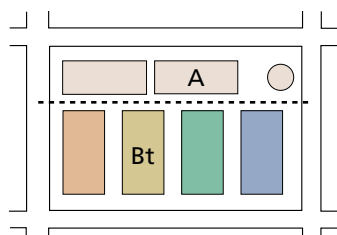


Bt：色相調和型配色

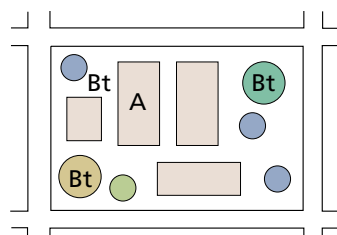
次のようなバリエーションが考えられます。



1事業所全体を重点カラーデザイン地区とし、トーン調和型配色を採用した場合。



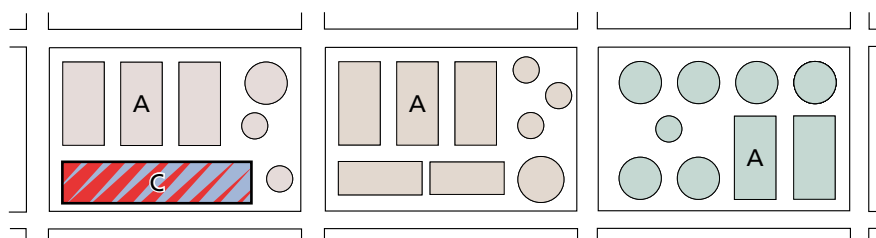
メインとなる道路側・運河側等の特定の区域を重点カラーデザイン地区とし、トーン調和型配色を採用した場合。



特定のアイテムを重点カラーデザインの対象とし、トーン調和型配色を採用した場合。

C

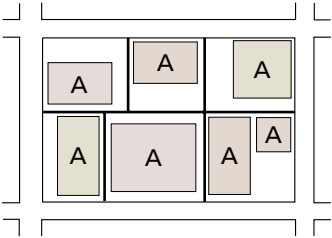
グラフィックデザイン拠点
を選択した場合の拠点の選び方



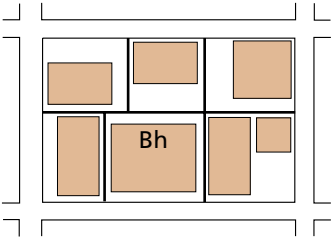
C：グラフィックデザイン拠点

特定の施設をグラフィックデザイン拠点とします。公共性が高く地域のランドマークとなるような施設を選択してください。

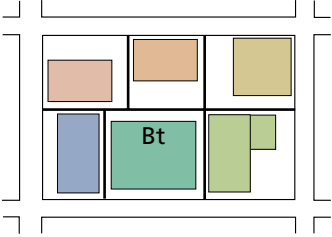
●小規模敷地の場合



事業所毎に一般カラーデザイン地区とし、色相調和型配色を採用します。



いくつかの企業が集合した地区全体を重点カラーデザイン地区とし、全体で1基調色相の色相調和型配色を採用することが望めます。



いくつかの企業が集合した地区全体を重点カラーデザイン地区とし、全体で同一のトーン調和型配色を採用することが望めます。

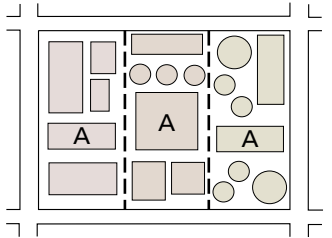
A	一般カラーデザイン地区
B	重点カラーデザイン地区
Bh	色相調和型配色
Bt	トーン調和型配色
C	グラフィックデザイン拠点

敷地境界線

施設

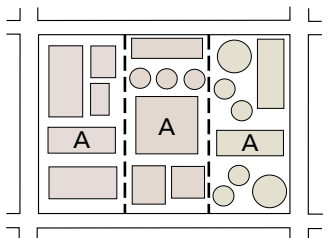
道路

●大規模敷地の場合

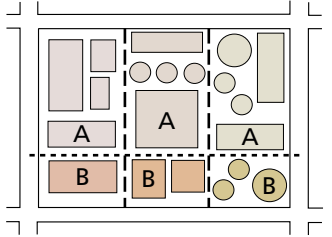


事業所全体を一般カラーデザイン地区とし、色相調和型配色を採用します。敷地をゾーニングし、ゾーン毎に基調色相を設定することができます。

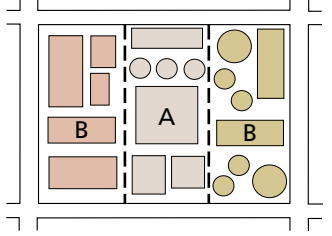
次のようなバリエーションが考えられます。



ゾーニングした各ゾーン全体を重点カラーデザイン地区とした場合。



各ゾーンの特定の区域を重点カラーデザイン地区とした場合。



特定のゾーンを重点カラーデザイン地区とした場合。

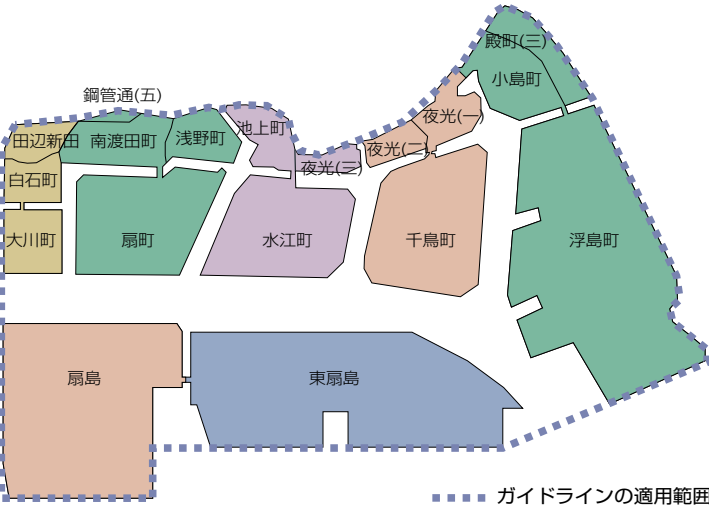
※Bは、BhとBtを含みます

[基調色相の選択にあたってのサブシステム]

臨海部のゾーン別にテーマカラーを選んでみました。基調色相を選定する際に迷うようであれば、このテーマカラーを参考にしてください。

テーマカラーとゾーンの組合せは次の通りです。

- | | | |
|------|--------------------|----|
| 1ゾーン | 浮島町、殿町三丁目・小島町 | 緑系 |
| 2ゾーン | 千鳥町、夜光一・二丁目 | 赤系 |
| 3ゾーン | 東扇島 | 青系 |
| 4ゾーン | 水江町、夜光三丁目・池上町 | 紫系 |
| 5ゾーン | 扇町、浅野町・南渡田町・鋼管通五丁目 | 緑系 |
| 6ゾーン | 大川町、田辺新田・白石町 | 黄系 |
| 7ゾーン | 扇島 | 赤系 |



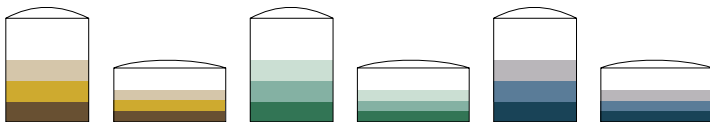
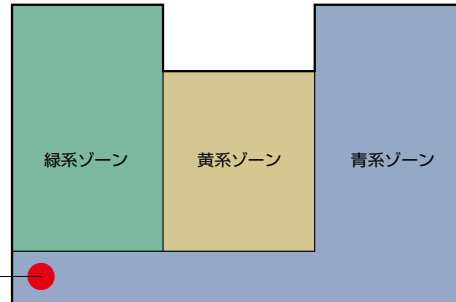
[8] 色彩計画の実施例

これから示す例は、A事業所において実際に進められている色彩デザインの実施例です。
A事業所は重点デザイン地区を選択し、
そのうちひとつのタンクをグラフィックデザイン拠点に位置づけた色彩デザインを行い、
施設の塗り替えを進めています。

[敷地全体の色彩計画]

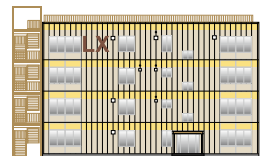
わかりやすく、さわやかな工場景観の形成をコンセプトとして、
基調色相に黄系、緑系、青系を選び、ゾーン分けを行いました。
また、運河に面し、外から良く見える1つのタンクを
グラフィックデザイン拠点に位置づけました。

グラフィックデザイン拠点



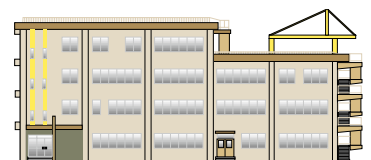
●共通のアイテム別のデザイン事例

円筒形タンクは、下から 1 : 1 : 1 : 2 の比率に分割し、下から濃い色を使い、徐々に白色となるようなグラデーションによるデザインを行いました。
ゾーン毎の基調色相によって左図のような色彩デザインを採用しました。



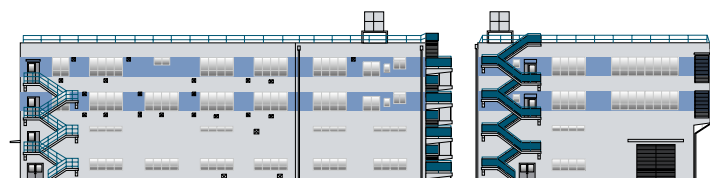
●黄系ゾーンのデザイン事例 (1)

建具のパネル巾にあわせて、アクセントのストライプを帯状にまわし、左上に施設の頭文字をロゴマークとしてデザインした事例です。



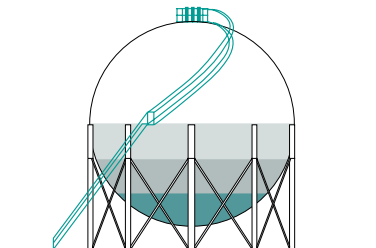
●黄系ゾーンのデザイン事例 (2)

パラペット部分とひさし部分をアクセントとし、外階段及びスチールドアを中間色で塗り分けたデザイン事例です。



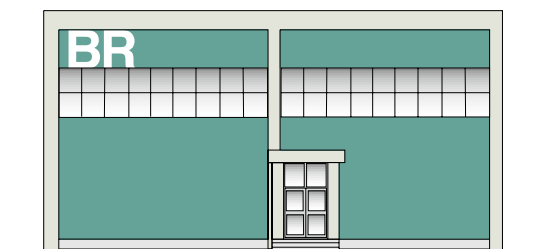
●青系ゾーンのデザイン事例

3、4階の建具の高さで塗り分けを行い、外階段をアクセントカラーで塗ったデザイン事例です。



●緑系ゾーンの個別施設のデザイン事例 (1)

球形タンクは熱の反射に考慮して、半分から上を白とし、下を3色のグラデーションにより塗り分けたデザイン事例です。



●緑系ゾーンの個別施設のデザイン事例 (2)

建築の柱型、梁型及び壁面で塗り分けを行い、外階段をアクセントカラーで塗装し、正面左上に施設の頭文字をロゴマークとしてデザインした事例です。



1

●実施例

- 1—共通アイテム別デザイン事例に基づき塗装されました。
- 2—緑系ゾーンの個別施設デザイン事例(1)に基づき塗装されました。
- 3—緑系ゾーンの個別施設デザイン事例(2)に基づき塗装されました。
- 4—運河沿いのタンクを水槽にみたく、その中をサカナがおよぐ姿をデザインしたグラフィックデザイン拠点の実施例です。



2



3



4

[9] さまざまな色彩デザインの事例

国内・海外の色彩デザインの事例を示します。

色彩デザイン、特にグラフィックデザイン拠点の色彩デザインを進めるにあたって参考にしてください。



1

1—高彩度色をダイナミックに用い敷地内の施設に統一感をもたせた工場／フランス・リメールシェヴィル

2—事業所のシンボルとして大胆な配色を行いランドマーク性をもたせた煙突／磐田市

3—臨海部景観デザインコンペにより、2本のセメントサイロに大胆な色彩と構図で描かれた「ソラ」／川崎市・千鳥町

4—階段や操作室など部位ごとに塗り分けを行ったガントリークレーン／北九州市

5—臨海部景観デザインコンペにより、2棟の倉庫にシンプルで美しい構図で描かれた「清らかな川」／川崎市・千鳥町

6—アルファベットの文字をモチーフに色相の異なる鮮やかな色彩デザインを行った倉庫／フランス・バルカレ

7—さわやかで透明感を感じさせるデザインによりリフレッシュされた市の処理センター／川崎市・千鳥町

8—単調になりがちな工場地帯の沿道景観をイメージアップするような、カラフルな色彩デザインを行った万年堀／川崎市・千鳥町



2



3



4



5



6



7



8



KAWASAKI CITY

川崎市

まちづくり局 計画部 景観・まちづくり支援課
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.044-200-3025